

令和4年度きのくにコミュニティスクール座談会（北山村）

日時：令和5年1月17日（火）13:30-15:30

会場：北山村民会館

参加者：25名（学校運営協議会委員、公民館主事等）



うえば けんじ 氏
上羽 寛 氏

上宮田町生馬公民館長



元県立学校長

おおむら しゅんいち 氏
大浦 俊一 氏

かつらぎ町妙寺公民館長

公民館と学校の協働 ～子供と地域をつなげる公民館活動～

公民館長になられたきっかけは？



県立高校を退職後、公民館運営委員をしたのがきっかけ。妙寺自治区長・教育長の「ちょっと話があるんだけど」という誘いに乗ってしまった笑。家族にも相談したが、受けて良かった。今日の出会いや縁にも感謝している。

小中高校のPTA活動をきっかけに、公民館運営委員をしたのがきっかけ。館長になって10年以上になる。PTA活動を一緒にした仲間達にも未だに助けもらいながら公民館行事を実施している。



公民館にテレビ取材が来ることになりました。何を紹介しますか？



『竹灯籠の会』

実際にテレビ局が取材にきました（笑）。映像を見てください。

これは出来上がった竹灯籠の写真だが、作成過程において、地域の小学校、中学校、高校と関わる時間が随分とあった。「おもしろそうですね」と反応してくれる校長先生の存在が大きいと思う。それぞれの年齢の子供に役割があるが、高校生ともなると大人顔負けの力を発揮してくれる。始まったばかりのプロジェクトだが、1年1年協力者が増えている。

『寺子屋教室』

毎週水曜日の放課後に実施する「寺子屋教室」。「一字一字丁寧に字を書く時間が欲しい」という学校の願いと、地域で子供に関わる場を設けたいという公民館の願いが一致して実施。もう10年以上続く教室となっている。

完成作品をロビーに飾って毎週積み重なっていく。上達の段階がよく分かる。それ以外にも、迎えにくる保護者の交流の場になったり、関わってくれる大人の生涯学習の場にもなっている。いくつも成果があるのが良いところ。



沢山の「協力者」が写真に写っている。どのように声かけするのか？



公民館主事の存在が大きいと思っている。うちの公民館の「顔」は主事だと思っている。生馬公民館を視察したことをきっかけに、主事のやる気もう一段階上がった。やる気が上がれば、協力者も増えると思う。

PTA活動をはじめ、多くの町の行事にボランティアとして関わってきた。その時の繋がりに助けられている部分大きい。そういう意味では、関係づくりが出来ている人に声かけして、協力してもらっている。



会場から質問はないですか？

コロナで色々な行事が中止になっている。どう思われるか？



ガイドラインにある感染対策をすれば、規模は小さくなくてもできる。中止にはしたくない。「意地」でやっている（笑）。

子供が様々な体験ができること、様々な出会いを経験するチャンスはその時だけ。貴重な体験、経験を奪いたくない。その一心で中止せずに実施している。



北山村では青年会という組織がある。現役世代の参画はどうすれば？



そこが一番の課題であり、悩み。竹灯笼プロジェクトには役場の若手有志が随分協力してくれた。更に広がっていくように、地道に続けたい。

同じく悩みどころ。年間スケジュールを早年度当初にお知らせするように改善した。都合つけて参加できる保護者世代の参加が増えつつある。



最後にメッセージをいただけますか？



かつらぎ町の出生率を見て欲しい。少なさにショックを受けた。これはもう、子供の教育を学校だけに任せていて良い時代ではない。学校と地域が同じ意識を持って取り組まないといけな時代。公民館が地域の代名詞だとすれば、私は今責任のある立場にある。これからも「おもしろく」「楽しいこと」を続けたい。

かつては荒れていた県立熊野高校100周年の新聞記事を見て欲しい。20年以上「学校協議会」会長として関わってきた。地域の本気の思いが、学校や生徒や先生を本気にさせる。それは時間がかかること。でも続けていれば必ず結果はでる。きのくにコミュニティスクールも地道に続けることが大事。



参加者の感想

- ・ 子供達のために色々な行事を開催して、多くの経験をさせて成長させていこうとする努力が凄いと思った。自分の町でも何かアクションを起こしたい。
- ・ 何事にも前向きな姿勢の必要性を感じました。
- ・ 学校改革が地域の活性化になる。大きなヒントをいただきました。

